



第三回 荒川区区政改革懇 グループ討議会議録：紫

【日時】

9月20日(木) 19:00~21:00

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：望ましい荒川のすがたや課題について話し合う

【場所】

荒川区役所 101会議室

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の話の内容確認、議事録の確認がなされた。

11月下旬に中間報告会を予定しており、それに向けてこれまでの議論をまとめていく必要があること、発表者選出を行う必要があることの確認がなされた。

ステップ2：望ましい荒川のすがたや課題について話し合う

【交通基盤の整備に力を入れる】

- ・ 荒川区は、交通の便がよい。利便性が高い。外国へ行くにも、成田へ行くのに便がよい。羽田へ行くにも不便ではない。
- ・ 職住近接であることがメリット。ターミナル駅があるため、東京駅を含め、都心部に行きやすいし、近い。
- ・ 道路、交通網は財産である。交通資源を上手にシステム化し、いかに体系化し、人の流れを作っていくかということが重要。
- ・
- ・ 交通を体系化することによって、それにリンクしてくる政策がたくさんあるはずなので、強化するべきである。近接区と一緒に作っていくとよい。
- ・ 荒川区内の駅を拾い上げてみるとかなりたくさんある。路線では都電、地下鉄2本、常磐線、山手線、京成線、つくばエクスプレスなど。どこで何に乗るとどこへいける、という情報提供が充実するだけでずいぶんよくなると思う。
- ・ 鶯谷、日暮里、西日暮里、田端の山手線の駅からの道路を活かしたまちづくりができないか。
- ・ 首都高上野線(入谷)を中央環状線につなげるようなことができるとういのだが。

- ・ 都電のルートを浅草や汐入まで通す計画が実行できたらよいのだが。(しかし法律や地権の問題で無理であろう)

【回遊できるまちをめざす】

- ・ 人の流れをいかにつくるか、回遊させるかということが観光化につながる重要な要素となる。
- ・ 交通の体系化に観光政策と荒川ブランドをリンクさせる。それが、新しい企業の創造と商店街の活性化につながる。
- ・ 幹線道路に接する商店街にコスモスを植えるなどのイベントを行い、それを区外に発信する。そこで人を呼び込んだときに回遊できる道があるか、ということが大切。人を回遊させることで、商店街に活力を与える。そうすることで新しい産業群が生まれるのではないか。
- ・ 谷中 - 根津 - 千駄木というのは回遊ルートがあり、古い建物や小物屋が点在している。PRも上手いため、観光がうまくいっている。環境的には荒川と大きくは変わらないはずだから習ってうまくできないか。
- ・ ブランドを売るのに、イベント政策を打ち立てたらよいと思う。浅草のサンバカーニバルは当初は不評だったが今ではすっかり定着している。荒川も今年から「荒川よさこい」を行う。こういうイベントやブランドをもっと活発に行い、区外に発信し、総合的に売っていく。
- ・ 他区から人を呼べるといえる荒川のブランドは日暮里の繊維だろう。「ニポカジ」と言われて人が集まっている、これをもっと活かす。
- ・ 隅田川の護岸整備は、現状では全 8km のうち 30% しか完成していないとのこと。三ノ輪までつなげればいい散歩道になり、三ノ輪橋商店街とともによい観光資源になるのではないか。

【河川を活用した観光の可能性】

- ・ 川というのは歴史とのつながりがあり、また昔から人やものが集まる大きな資源である。道を一本通したらさらに広がる。よってこれをもっと活かすべき。
- ・ お台場が流行っているのだから、同じように隅田川の魅力で集客したらよい。
- ・ 隅田川を使った船の便を、単なる足としてだけでなく、観光資源として使ったらどうか。船の便の観光をもっと充実させる。荒川遊園の波止場は活用されていない。船によるコースは、浅草までで終わっているのも、もっと上流の荒川遊園くらいまではひくといったことはできないだろうか。
- ・ 川のことは広域行政なので、すぐの実現できる問題ではないが、将来的にステップを踏んで進めていくにはちょうど検討を始める時期なのではないか。都に協力してもらい、沿岸の区と一緒にできるようにしたらよい。
- ・ 船を都バスなみに使いやすくしたらどうか。料金をもっと下げてほしい。

【土地利用、人口増加策】

- ・ 住宅のみが増えていく今の状況では、前からある工場が、後から来た住民に「うるさい、臭い」と言われ、出て行くことになってしまっている。

- ・「住」と「工」が調和していかれるようにすることを考えていくべき。このことは理想論だと言って無理と言っているのではなく、そういう方向に持っていくように考えるべき問題だろう。
- ・今は、「住」の伸びが強い。そのことによってコンビニやスーパーが伸びるのではないか。
 - ・住工混在は逆に見たら良い点になるのではないか。
- ・活力あるサラリーマンに積極的に住んでもらえるようにするための受け皿を作っていく。
- ・人口をどれくらい増やすのか、またどれくらい減らすのか、具体的な数値をあげる必要がある。
- ・荒川区の1世帯あたりの住宅敷地面積は60.3㎡で、23区内で低い方である。これを都の平均まであげるといった方針をたてていったらよい。
- ・人口を増やすために、土地を有効利用するため、住宅の高層化（マンション）が増加してようである。しかし、土地利用・住宅政策としては、安易と思われ、いつかしっぺ返しがかかるような気がする。ビルを高くするといった縦への伸びだけでなく、低いままでも宅地と空間を確保していくような努力をすることが必要ではないか。

【防犯・防災、緑化について】

- ・南千住付近の常磐線のガードが防災面で心配である。
- ・区役所の前が暗すぎるので、防犯上はよくないのではないか。防犯カメラ設置等の対策が必要ではないか。
- ・南千住は墨田区の京島と並んで、古い木造住宅が密集する防災に弱い地区である。火災により10分で10棟が焼けたこともあったという。そういった地区の対策が必要と思う。
 - ・荒川区は23区で緑化ワースト1だ。自然環境を保全・活用していくことが必要。隅田川の自然を生かしていく。
- ・緑化のために、小学校の全面芝生化を進めている（尾久西小学校等）。ただし、傷みがひどかったり、維持管理でトラブルがあったりと問題もある。

【その他】

- ・将来の荒川区に、一番必要なことは財政の健全化である。それには自主財源の確保と民生費予算からの脱却が不可欠である。そのためにどういう産業を発展させなければいけないかを考えていくべき。
- ・高齢化と出生率は23区でワースト5に入っている。高齢化への対処が必要不可欠。元気な高齢者を行政がつくっていくための施策が必要。
- ・理想ではなく、現実を踏まえた数年先の荒川区の将来像を考えていくべき。

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

本日の議論の内容確認として、主に観光・産業、都市基盤整備についての話し合いがなされたことを確認した。

ステップ4：その他

【次回について】

次回は、今回話し合いがなされなかった福祉や教育などについて話し合いを行っていくこととした。

次回の日程は 10 月 13 日の 19 時から。